

<就職先企業アンケート調査 実施概要>

愛知文教大学 キャリアセンター

1. 調査の概要

【目的】 本学の教育課程において、基礎的な学力(教養・知識)を身につけ、その学力を基に判断力・思考力・表現力等を養い、社会の変化に対応しながら、主体的に行動し社会で活躍できる人材育成が不可欠である。
本調査の実施により、大学に対する企業からの評価(社会的評価)や本学へのニーズ等を測り検証し、今後の教育・研究活動や就職支援の改善に資することが目的である。

【調査対象】 2021年3月卒業した学生が就職した主な企業20社(24名対象)

【調査時期】 2021年7月14日発送 8月20日締切

【調査方法】 郵便で配布し、郵便・FAXで回収(アンケート用紙と返信用封筒を同封。未提出企業には電話にて依頼。)

【回収率】 企業 80%(16社/20社) 就職者 71%(17名/24名)

【質問項目】 (1)社会人としての基礎的な能力「12項目」

(2)知識・教養・技能「7項目」

(3)外国語運用能力「3項目」

(4)採用にあたって、どのような点を重視されますか「5項目」

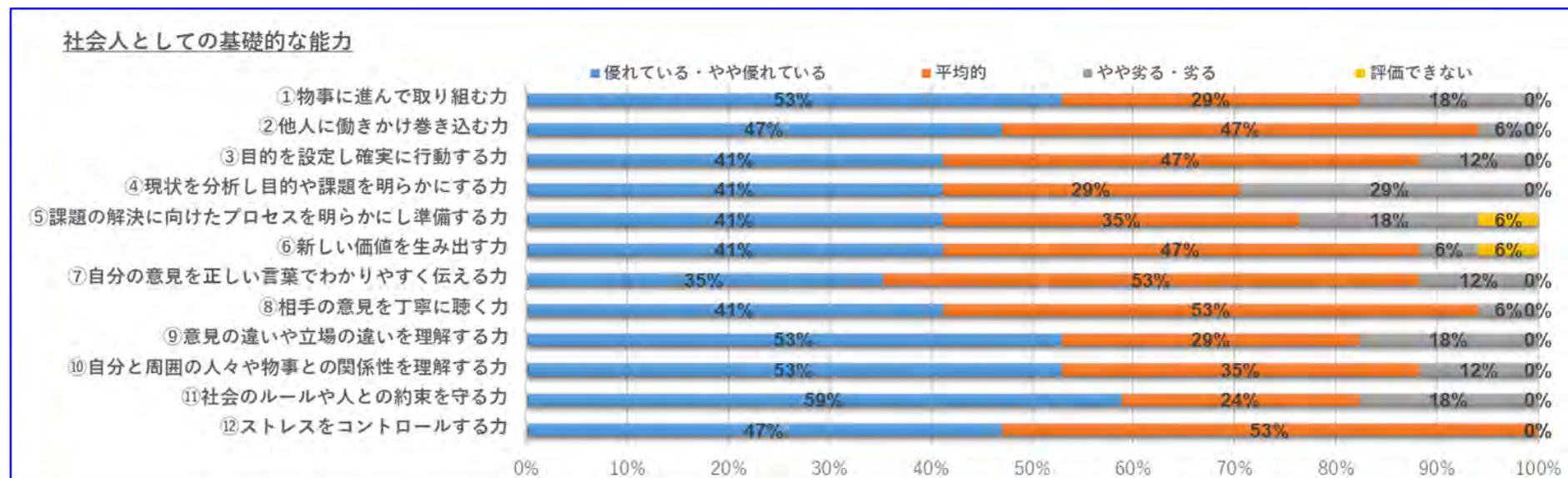
(5)学生生活を通じた人間形成について、本学はどの分野の支援を充実させることが望ましいと思われますか
(5項目の中から3つ選択)

(6)企業訪問を行う場合の日程「5項目から選択」

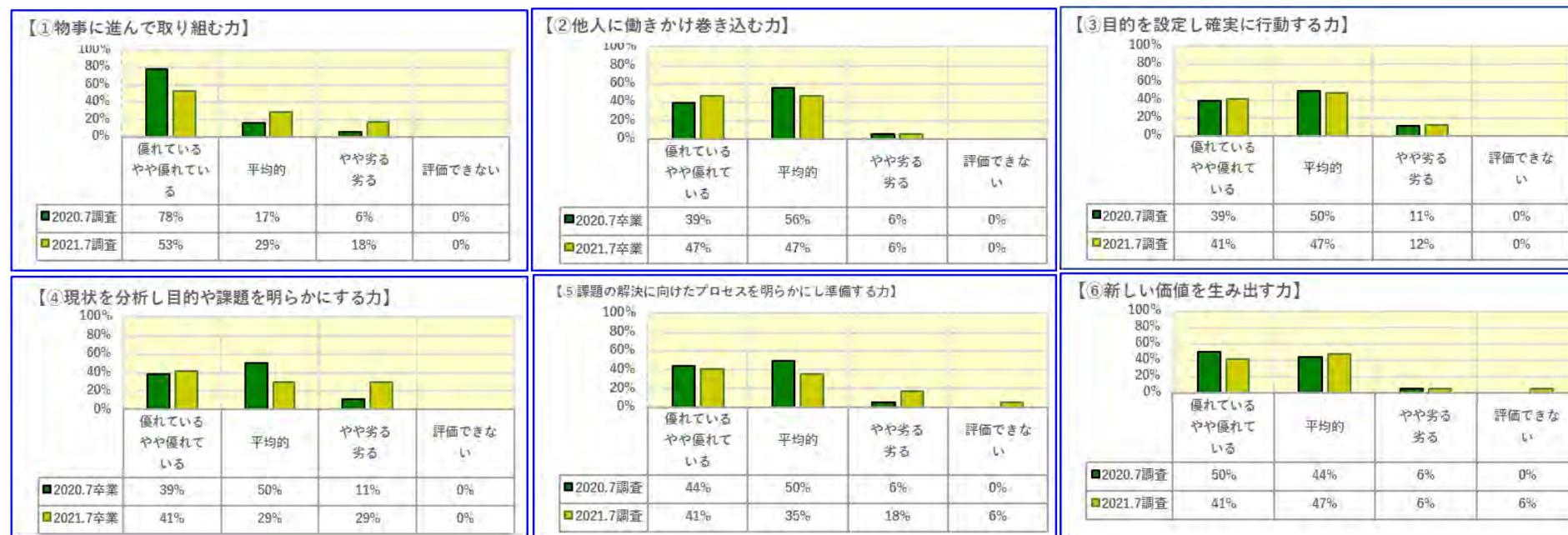
(7)その他、ご意見、ご要望などの自由な意見

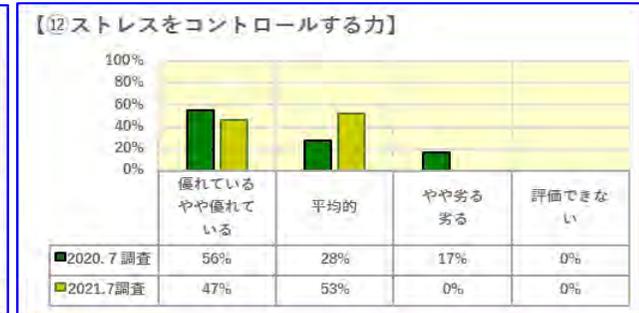
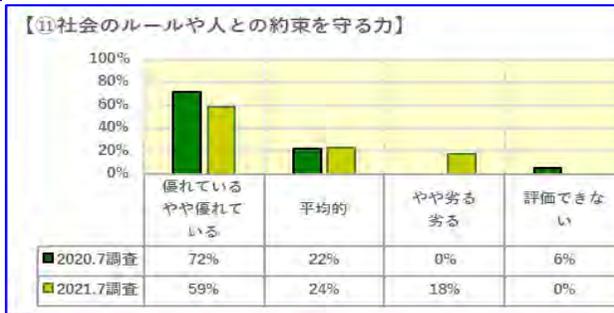
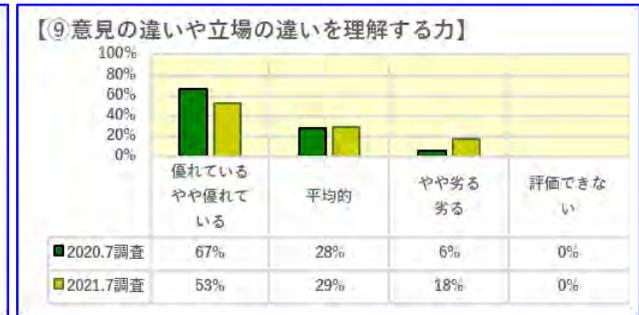
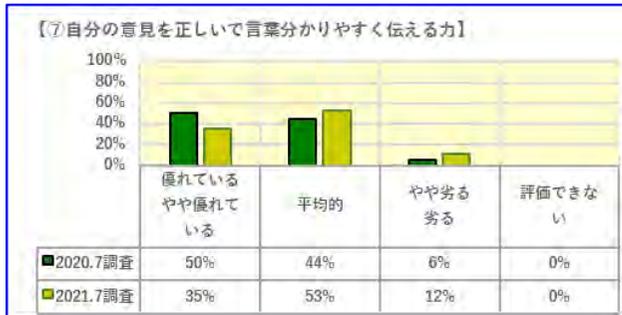
2. 調査結果の要約

(1) 社会人としての基礎的な能力



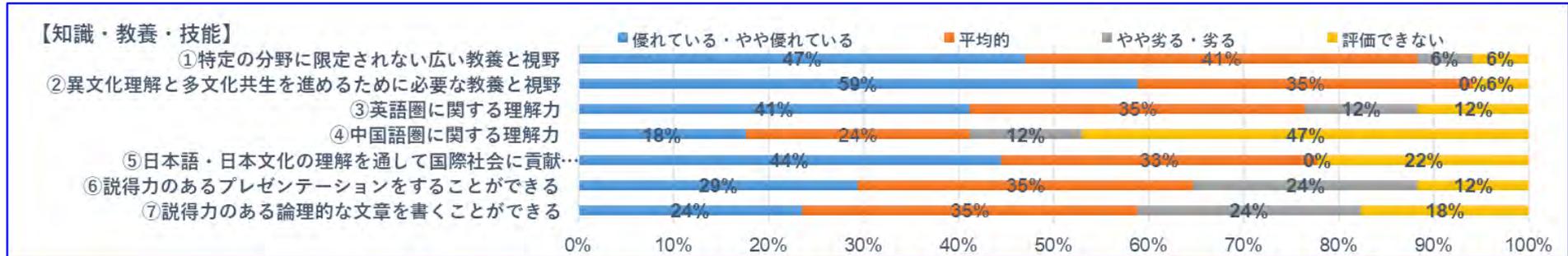
【2020年度と2021年度の比較】



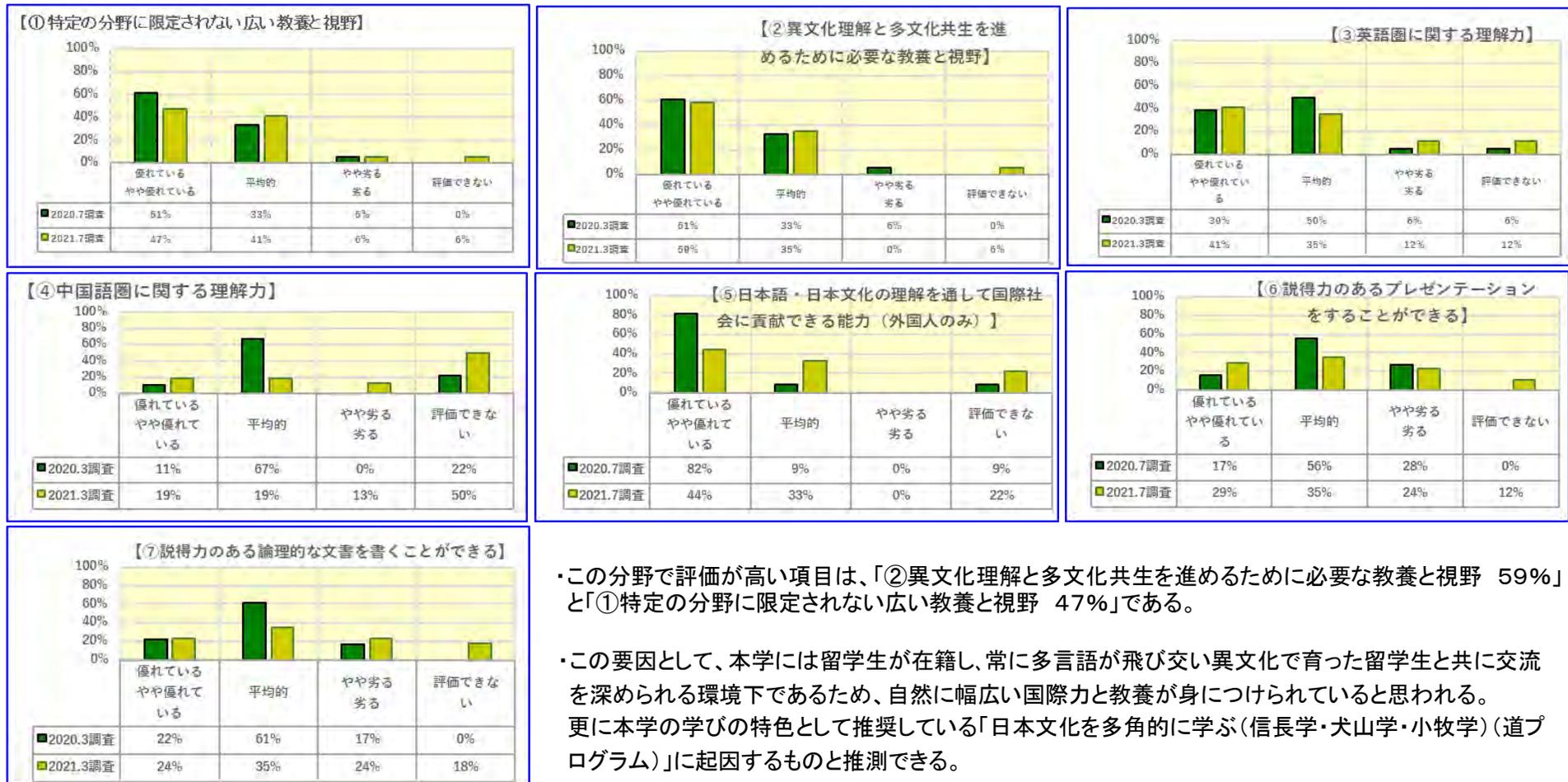


- ・この項目は、地域社会や職場のなかで多様な人々と共に仕事を行っていく上で、自らの能力を最大限発揮し普遍的に求められる社会人としての基礎スキルが社会人基礎力であり、その基礎力は「前に踏み出す力(アクション)」、「考え抜く力(シンキング)」、「チームで働く力(チームワーク)」の3つの能力とそれの伴う12の能力要素(上記①～⑫)から構成されている。
- ・上記グラフの①②③の項目は「前に踏み出す力(アクション)」で、失敗しても他者と協力しながら粘り強く取り組む力を示している。本学学生は、指示を待つのではなく、自らやるべきことを積極的に取り組む姿勢を表す「物事に進んで取り組む力」の項目は、53%と良い評価を得ている。また、「他人に働きかけ巻き込む力 47%(昨年39%)」については、昨年と比較すると良い評価を頂いている。この項目は、困難な仕事もチームで互いに協力することで乗り越えやすくなることを意味している。
- ・④⑤⑥の項目は「考え抜く力(シンキング)」を意味し、社会では、常に疑問や問題意識を持ち課題を発見し、自ら深く考える思考力が求められおり、そのための能力要素を示している。本学の学生は、全ての項目で平均的以上の良い評価を得ているが、④現状を分析し目標や課題を明らかにする力で、「やや劣る・劣る」の評価が29%と高く気になる。この項目は、日頃の生活のなかで「どうしてこうなるのか」という原因追及する見方をする習慣を持つことで改善できると思われる。
- ・⑦⑧⑨⑩⑪⑫の項目は、「チームで働く力(チームワーク)」を評価する能力要素で、多様な人々と目標に向けて協働・協力する力を示している。本学学生の評価は、総合的には良い評価を得ている。特に⑨～⑪の項目で「優れている、やや優れている」が過半数を占め評価は良い。この項目は、自分の意見を的確に伝え、意見や立場の異なるメンバーも尊重し、多様な社員と共に目標に向けて協力するコミュニケーション能力を示している。
- ・以上の3つの能力のなかで、企業が特に求める能力は「前に踏み出す力」を重視している傾向が強いので、今後の大学教育においては、主体性、実行力、課題発見力を向上させ将来のビジョン・目標などを立てられる能力を養う教育が望まれる。

(2)知識・教養・技能

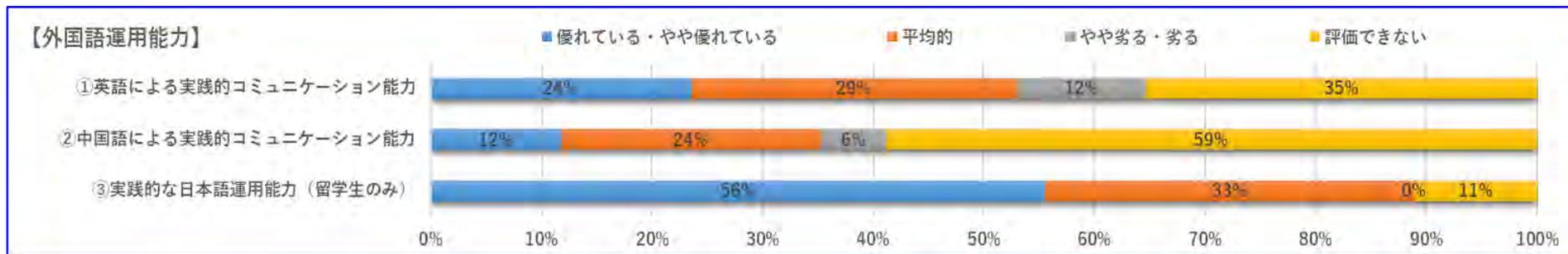


【2020年度と2021年度の比較】

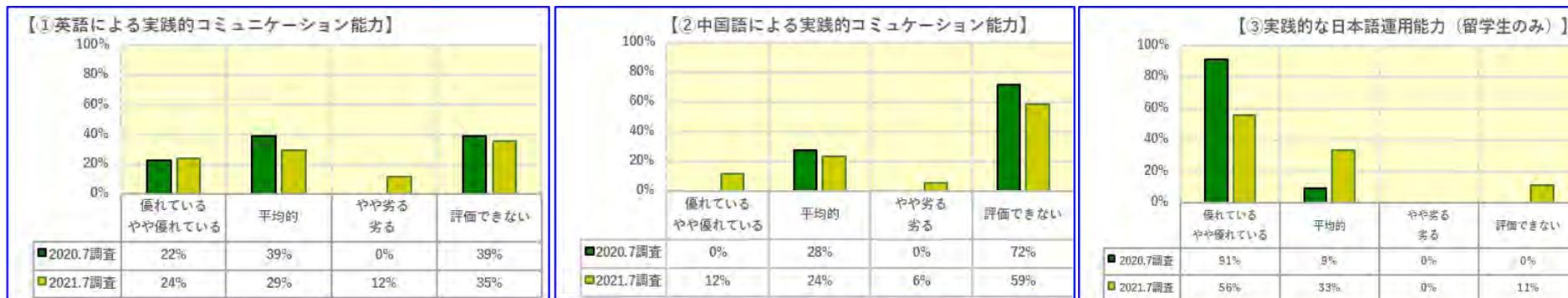


- ・反面、「やや劣る・劣る」の割合が高い項目として、「⑥説得力のあるプレゼンテーションをすることができる」が24%（昨年28%）、「⑦説得力のある論理的な文書を書くことができる」が24%（昨年17%）と本学学生の弱い部分が表れている。
- ・改善手法として、従前から本学で取り入れている「学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習方法のグループ・ディスカッション、グループ・ワーク、ディベート体験等のアクティブ・ラーニング」の更なる推進やキャリアセンターが開催する講座やガイダンスの受講について、積極的な参加を促すことで解決策の一助になると考えられる。

(3)外国語運用能力

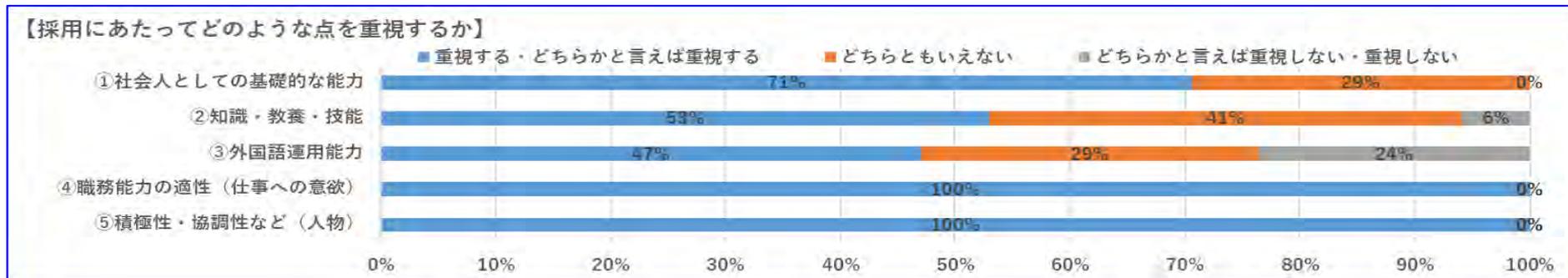


【2020年度と2021年度の比較】

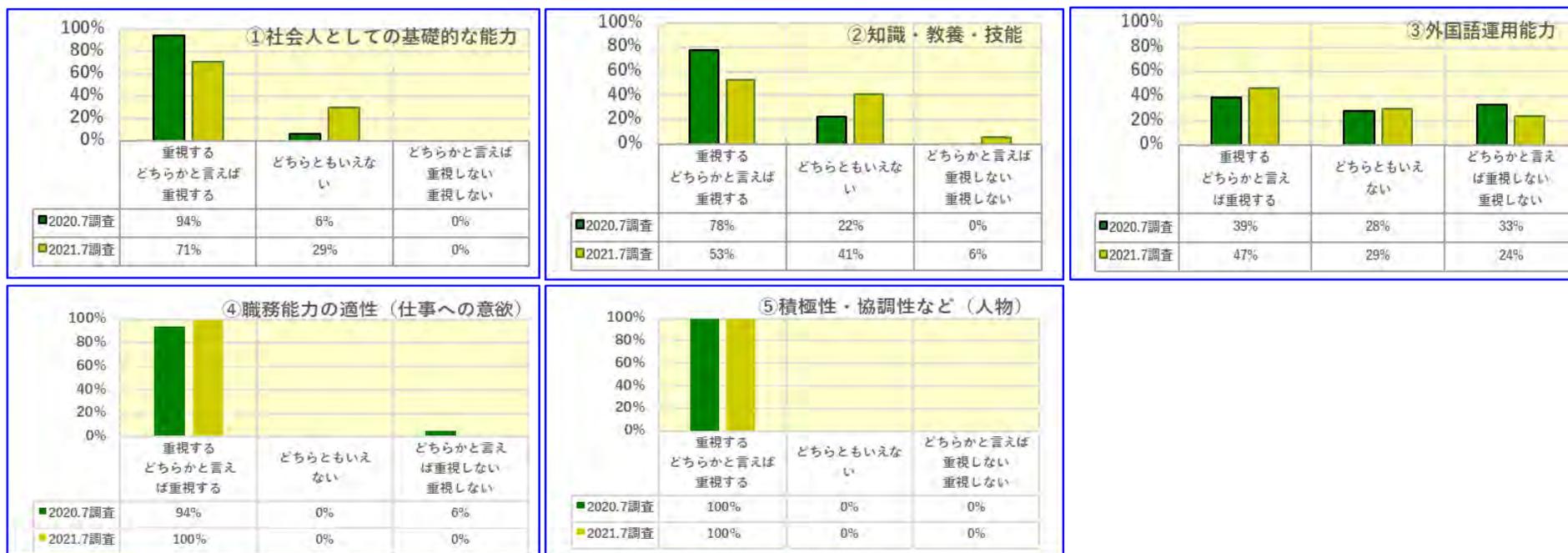


- ・留学生への質問で、「③実践的な日本語運用能力」の項目は、「優れている、やや優れている」と回答した企業の割合が、56%と良い評価を得ている。この要因として、本学は外国人留学生が在籍し、留学生と日本人学生との多文化共生の環境下で、日本語能力が必然と身につく表れである。また、アルバイト経験も日本語能力を高める要因になっている。
- ・「①英語による実践的コミュニケーション能力」、「②中国語による実践的コミュニケーション能力」の設問に対しては、評価できないとの回答が多かった。このことは、企業内の日常業務において、中国語・英語を活用する機会が少なく、評価しづらいことに起因すると思われる。

(4)採用にあたって、どのような点を重視されますか。



【2020年度と2021年度の比較】

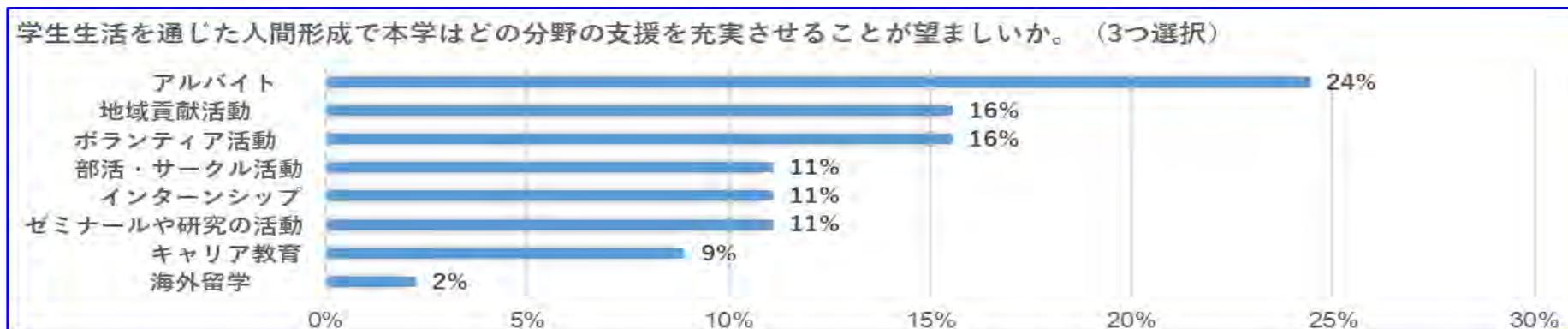


・企業は、採用にあたって「⑤積極性・協調性(人物) 100%(昨年100%)」、「④職務能力の適性(仕事への意欲) 100%(昨年94%)」、「①社会人としての基礎的な能力 71%(昨年94%)」の3要素に力点を置いている。

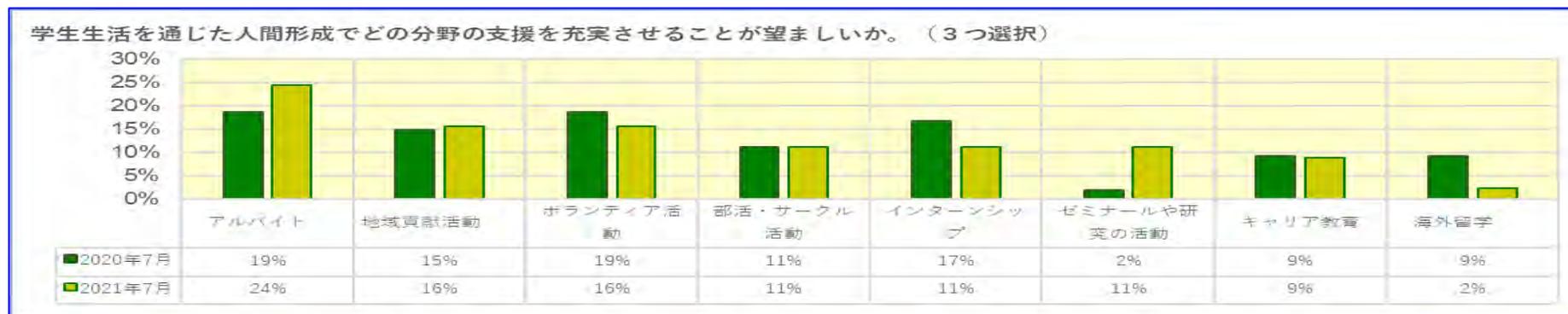
・外国語運用能力の項目は「重視する、どちらかと言えば重視する」との回答が47%(昨年39%)を占めており、企業内の日常業務は勿論、グローバル化が急速に進んでいる現状の中、語学力の基礎を身につけてほしいという表れである。反面、「どちらかと言えば重視しない、重視しない」が、24%(昨年33%)で必ずしも肯定的ではない回答もあるが、外国語教育は、今後も大学における学修として継続的に学ぶことが求められていると思われる。

(5) 学生生活を通じた人間形成について、本学はどの分野の支援を充実させることが望ましいと思われるか。

《学生生活として考えられる地域貢献、インターンシップ、部活動、アルバイト、その他社会生活について9項目を選択肢とし、3つまで選択可とした。》



【2020年度と2021年度の比較】

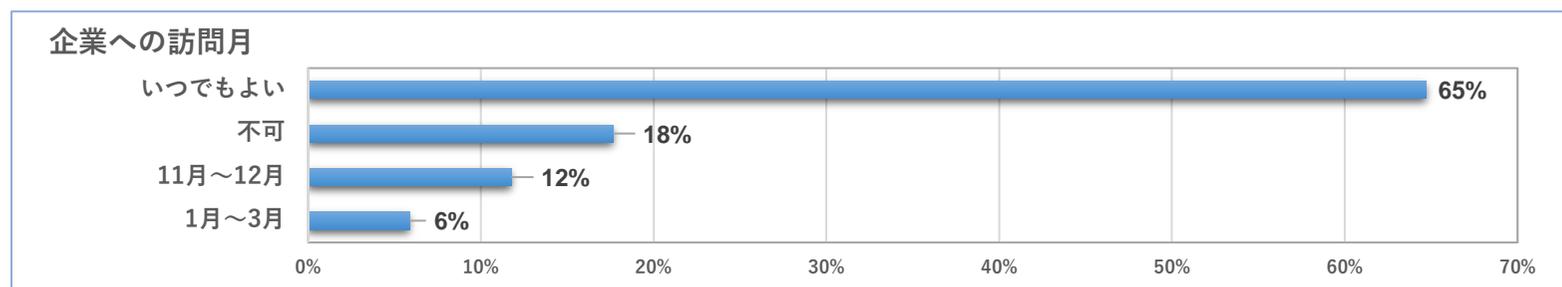


- ・回答のうち、上位を占める項目は、「アルバイト」、「地域貢献活動」、「ボランティア活動」であり、部活・サークル活動、インターンシップ、ゼミナールや研究の活動と続く。
- ・「アルバイト」を選択する企業割合が高い要因として、学生時代に企業や仕事に触れ合える貴重な体験と実際に働くことで社会の機微を知り、対人交渉能力や責任感、社会性等を養うことができる。「ゼミナールや研究の活動」においては、問題発見能力や課題解決能力が高められる。また「部活・サークル活動」は、組織のなかで上下関係を学びながら一つの目的・目標に向かって、他者と協働し物事を進める力を身につけられると企業は判断している。総じて、学業の研鑽を重視しながら、学生時代にしかできない経験も積んで欲しいとの表れと思われる。
- ・本学としては、地域社会とりわけ地元へ貢献する大学として「地学地就」すなわち、地元の大学で学び、地元自治体や企業への就職を通じて地域の活性化に寄与する人材の育成を目指していくことが大切であり、そのために地元企業のインターンシップへの参加や地元企業人、公的機関の人事担当者を招いたキャリア講座の開催、更には自治体等が行う地域貢献活動やボランティア活動へ積極的に参加することが必要であると思われる。

(6)大学への意見、要望や採用した学生に対するコメント(抜粋)

- ①とても明るく先輩からもかわいがられています。仕事も責任を持って行っている。
- ②社内は勿論、社外や客先でのコミュニケーション能力も高い。
- ③解らないこと、困ったことは質問し、学ぶ意欲も高いと感じています。覚えるのも早いです。
- ④一言で言うと「素晴らしい人材」

(7)企業訪問を行う目的と日程



- ・今回行ったアンケート調査を補完するため、企業訪問を実施し、本学卒業生の勤務状況、採用満足度や採用にあたって学生に求めることなどを企業採用担当者にヒアリングを行い、企業が求める人物像を更に詳しく確認調査を行っていく。

(8)就職先企業訪問による主なヒヤリング結果（新卒者に求めること）

- ・社員に求めることは、言われたことだけではなく、自分から受動的に動ける人材を求める。「先を見て過去を振り返りながら仕事に傾注できる」ことが大切と考える。
- ・仕事を選択するなかで、大学の専攻分野に合う業種選択は必要であるが、業種を絞らず幅広く色々な業種に興味を持ってチャレンジして頂きたい。
- ・何事にも自分から積極的に行動でき、謙虚で素直な人材を求めている。
- ・自分を知っていると思っても意外と知らない部分があるので、自己分析ができる人材が大切である。また、分からないことを分からないと言えるハッキリ言える人材になって欲しい。
- ・主体性をマストとしている。また、通信業界としては、情報収集力がもっとも重要であり、インターネットからの情報は勿論であるが、現地現物ができる人材を求めている。
- ・留学生は、①漢字の読み書きができること。②基本的な業務は接客であるので、コミュニケーションをスムーズに取ることができる必要がある。③日本語の助詞や接続詞を間違える留学生が多い。このことは、接客業に於いては、言葉のニュアンスの違いでミスコミュニケーションが起こってしまうため。